

特別例会「人生、いろどり」

定例総会の報告

例会のお知らせ

- 名称／第 66 回例会『人生、いろどり』
- 日時／5 月 21 日 (火) ①AM 10:30ー、②PM 2:00ー、③PM 4:20ー、④PM 6:40ー
- 場所／加古川総合文化センター大会議室 (JR 東加古川駅から北へ徒歩 10 分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)
- 受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。
入会手続きを行っていない方は、受付で 4 箇月分の会費 (2000 円) を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。
- 会員以外の受付／当日入場料 1,300 円 (シニア (60 歳以上)・障がい者割引入場料 1,000 円)、チラシ割引入場料 1,100 円、加古川シネマクラブ会員の同伴者入場料 1,000 円

【例会作品データ】

- タイトル／人生、いろどり
- 監督／監督／御法川修
- 脚本／西口典子
- 出演／吉行和子、富司純子、中尾ミエ、平岡祐太、村川絵梨、戸次重幸



■データ／2012 年、日本、1 時間 52 分、ドラマ／ヒューマン

■解説／徳島県の山間にある上勝町。四国で最も人口が少なく、高齢化の進んだこの町は、希望という言葉とは無縁の典型的な過疎地だった。しかし、あるとき奇跡が起こる。ひとりの農協職員が、山で採れる葉っぱを料理の「つまもの」として販売することを発案。70 代、80 代の女性たちを主戦力に事業を起こした結果、年商 2 億円以上を稼ぎだすビッグビジネスに成長。町はうるおいを取り戻し、人口増加を記録するまでに変貌を遂げたのだ。

本作は、その実話から生まれた物語。つまものビジネスの立ち上げに関わった女性たちが、自分を変え、町を蘇らせ、生きる喜びを未来につなげていく姿を、オール上勝町ロケで描いた心温まる感動作だ。

(ホームページ解説から)

2013 年度定例総会の要旨

4 月 26 日 (金)、予定より遅れた午後 7 時 40 分から約 1 時間、出席者 9 人と委任状 8 人で、2013 年度の加古川シネマクラブ定例総会を開催し、1 年間を総括し、次の 1 年の計画を確認しました。承認された報告と議決の内容は、総会議案のとおりです。欠席の会員に送付した議案は、当日配付議案に一部の日付けと曜日の誤字や予算内訳の計算違い部分がありましたので、訂正議決後のものです。

総会の要旨を伝えます。全体としては、特に問題もなく議事どおり終了しました。

まず、2012 年度の活動報告と決算報告について、報告どおりの内容でした。収支について、表面的には赤字にはなっていませんが、上映会収入と手数料収入が約 8 万円あったため、会費収入だけではこの会の運営が実質ぎりぎり赤字の状況でした。意見として、昨年度は 11 月と 1 月の例会が、わかり難くおもしろみの少ない作品が続いたという批判が多かったこと、協力事業の全国映画大学 in 明石が盛会であったこと、などがありました。また、再び会員が減少傾向であることの懸念の意見がありました。

役員を選任については、監査委員が糟谷和代さんに代わって松本洋子さんに交代しました。運営委員が固

定化されてきているので、新陳代謝が必要なので呼びかけようという意見がありました。

活動計画と予算については、目立った事業は少なく、極めて緊縮としていた昨年度とほぼ同規模にしています。活動面では、全体に地味な活動計画ですが、これまでも増して良い映画を観る機会を増やしていきたいと考えています。今年度は全国映連が申請していた文化庁の補助事業が落選したこともあり、ゲストを招いての自主上映会は行わず、会員対象の映画鑑賞会である例会と一般対象の上映会を合わせた形態の特別例会を行うことの説明がありました。運営面では、余裕は全くない厳しい状況ですが、会員をはじめさまざまな方のお陰で、なんとか赤字に陥っていません。

会費による会の運営を安定して行うためには、会員を最低でも 180 人、できれば 200 人以上にしなければ難しいことには変わりありません。今後も引き続き、口コミやチラシの配布や会員の勧誘、特別例会への参加呼びかけ、補助金事業探し、その他、地域の映画関係事業への協力など、会員の皆さんご協力お願いいたします。

全国映連総会 & オプション参加報告

4月13日に東京・岩波シネサロンにて**全国映連総会**が開催され参加してきました。各サークルともに会員減の中でジタバタと色々やっている現状が報告されました。

総会後の全国映連賞贈呈式が総会以上に盛り上がりました。監督賞の**周防正行監督**と**海南友子監督**、男優賞の**役所広司さん**、女優賞の**大谷直子さん**と**草刈民代さん**、特別賞の**芦澤明子撮影監督**たちが本人出席で、会場は2ショット大会のようになっていました。

前日にはスタジオジブリで、**宮崎駿監督**の『**風立ちぬ**』の製作状況を見せてもらい、**鈴木敏夫プロデューサー**からは「皆さんにそっと教えますが、今度の宮さんの作品は、ほぼ全編タバコを吸っています」。宮崎・鈴木がヘビースモーカーのジブリでは、会議室やあちこちに灰皿が配置されていました。

高畑勲監督のスタジオにも行き、高畑さん自らの案内で『**かぐや姫の物語**』の進行状況を見せてもらいました。新技術はうまくいっていると自信満々で動きの一部はパソコンで見せてくれました。小さい絵を大きく見せる魅力を言っていました、それだけに力のある絵が必要で、描ける人が限られていて時間がかかる、とのことでした。最後に夕食までご馳走してもらいました。

総会翌日は**山田洋次監督**の新作『**小さいうち**』の



全国映連賞贈呈式の1コマ/監督賞の周防正行さんが、男優賞の役所広司さん、女優賞の大谷直子さんと草刈民代さんを記念撮影

撮影を見に東宝撮影所へ。**松たか子**、**黒木華**、**笹野高志**さんがいました。笹野さんとは少し話せて「今日だけです」とのこと。山田監督は忙しそうで挨拶のみ。笹野さんの芝居に監督が笑ってしまってNGという一幕もありました。去年の映画大学講師の**浜田毅撮影監督**も見学に来ていて、「贅沢な撮影ということであれば、長期間撮影できるという時間が贅沢」との感想。**出川三男美術監督**は「若いスタッフが頑張っていて僕に現場仕事をさせてくれない」と嬉しそうにボヤいていました。敷地内では、周防組のコーンがあったり、木村大作監督がリハか訓練か重いリュックを背負った若い人たちに檄をとばしたりしていて、中々活気ある撮影所風景でした。(健)

前回例会の報告

3月14日の例会では、港町マルセイユを舞台に、熟年夫婦とその家族の周囲で巻き起こるちょっとした事件から、夫婦や家族、そして人間の幸福観について考えさせられる『**キリマンジャロの雪**』(**ロベール・ゲディギャン監督**)を鑑賞しました。

テーマ、ストーリー、風景、俳優など、良質でわかりやすく明るいもので、「いい映画だったね」と明るく言いたくなるような作品でした。参加者からもわかりやすく良かったと、概ね好評でした。

参加会員 124 人でした。

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200～300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/cinemaclub>

会員数 167 人(3月14日現在)